

生駒市ごみ減量市民会議(令和2年度4回目) 会議録(要旨)

1. 開催日時 令和3年2月15日(月) 午後1時30分～午後3時35分

2. 場 所 生駒市役所4階403・404会議室

3. 会議次第

報告事項

- (1) 生駒市ごみ減量市民会議活動実績について
- (2) 広報いこま「いこまち」読者アンケート取りまとめについて
- (3) 燃えるごみ排出量の推移について

協議事項

- (1) ごみ減量市民会議が実施している活動について

その他

- (1) 生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画(案)の策定及びスケジュール案について
- (2) 生駒市ごみ減量市民会議の活動参加への感想、ご意見など

4. 出席者(敬称略)

【参加者】坂本 剛伸、藤堂 宏子、藤尾 庸子、山口 昭夫、清水 綾、奥田 高弘、
小山 忠昭、田平 厚子、山田 龍三、藤中 章夫、寺井 孝幸

【事務局】山本副市長(挨拶)、岡田(市民部長)、奥田(環境保全課長)、
木戸(環境保全課課長補佐)、鳴川(環境保全課事業係長)、
久保(環境保全課事業係)

5. 欠席者 なし

6. 傍聴者 0名

7. 会議内容(要旨)

開会

山本副市長挨拶

案件

報告事項(1)

●生駒市ごみ減量市民会議活動実績について

事務局 <資料1 生駒市ごみ減量市民会議活動実績について説明>

座 長 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった予定があった。

今後もイベントの開催は自粛傾向にあるのか。

環境フェスティバルは環境に関心を持っている市民が参加するが、いこま魅力博は、もっと幅広く市民が参加する。ごみにさほど関心のない市民に対しごみに関して啓発する機会が減っている。

事務局 当面は自粛傾向となる可能性があるがイベント開催の機会には啓発活動を行って

いく。

報告事項(2)

●広報いこま「いこまち」読者アンケート取りまとめについて

事務局 <資料2 広報いこま「いこまち」読者アンケート取りまとめについて説明>

参加者 広報いこまへの毎号の掲載は、市民会議発足当初からの希望であったが、なかなか実現しなかったところ、今回毎号の掲載となり、市民からの反響があったということは、継続して掲載する効果を実感している。今後も機会をとらまえ、継続した市民への訴えかけを続けていただきたい。

参加者 ごみに関してPRすることは有益である。ごみ袋有料化による市民へのメリットや還元などを広報紙で明確化することで環境問題や分別への協力も進むのではないかと。

座 長 全市民に発信するツールとして広報いこまは有効である。

事務局 ごみの減量への理解を進めるなかで情報提供が必要と考えている。市民へのアンケートにおいて「情報は広報紙から得ている」という回答が多かったことから、広報を活用して情報発信していきたいと考えている。

座 長 まごころ収集への反響が大きかったとのことであるが、こういった状況であったのか。

事務局 まごころ収集というサービスを知らなかった本人や親族からの問い合わせが増えた。

座 長 ある会議において、「まごころ収集対象者の拡大」という話があると聞いているが、事実なのか。

事務局 次の生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画において、まごころ収集の対象者を妊婦や退院後の方など、ごみ出しが困難な方へ拡大していきたいと考えている。

報告事項(3)

●燃えるごみ排出量の推移について

事務局 <資料3 燃えるごみ排出量の推移について説明>

質疑なし

協議事項(1)

●ごみ減量市民会議が実施している活動について

事務局 <資料 5 ごみ減量市民会議が実施している活動について説明>

座 長 今後の活動についてご意見や要望はあるか。

参加者 自治会懇談会に参加することで市民の声を直接聞くことができた。今後も機会があれば、参加及び協力していきたい。

参加者 ごみ出しのルールなど現場の声を届けるため、今後も参加していきたい。

参加者 他の自治体では、生ごみを燃やさずに処理しているところがある。ごみ処理に関する調査や探索に取り組むべきである。

事務局 他市において、燃やさず処理していることは認識しているが、場所の問題などがあり、調査は進んでいない。参考事例があれば、手法を気にしながら検討していきたい。

座 長 現在、市の状態は予算組み及び職員体制において、研究等ができる体制になっていない。しかし、会議体から出た意見は尊重しなければいけない。

参加者 今までもアイデアを市に提供してきたが、なかなか取り入れてもらえない。

座 長 行政は、市民からの声に対し何らかの行動や回答をする姿勢を示すべきである。

事務局 前向きに努力する。

参加者 ごみへのアピールとして自治会懇談会は良い機会である。自治会をいくつかのブロックに分け、何年間に分けて実施する方法もある。男女関わらず、普段はごみ出しに関わらない方に自治会懇談会などで現場の声などを聞いてもらいたい。

座 長 自治会に対し半強制的に懇談会を行う方法もある。

事務局 自治会懇談会は参加者から参加して良かったと言われる。また、次の一般廃棄物（ごみ）処理基本計画のなかで、みんながごみを分別しやすいようにするという目標があることから積極的に関わっていききたい。

参加者 子どもを対象にしたキエーロ製作講座を自治会単位で実施しても良い。子どもなど若い世代に、地球環境のために取組みを行っていることの説明をお願いしたい。

その他(1)

●生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）の策定及びスケジュール案について

事務局 <資料4 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）の策定及びスケジュール案について説明>

座長 目標値としてごみ排出量は、人口減による削減が5%、取組による削減が10%と合計15%削減するとなっているが、本当に実現可能な目標値なのかと危惧している。現実的に現在の計画期間中の人口は微減しているがごみ排出量は横ばいである。社会情勢が変化するなかで、人口減によりごみ排出量が減るのか疑問である。また、ごみ袋有料化など大きな施策を行って10%ほどの削減率であるのに、次の計画では大きな施策も行わずに15%の削減が実現可能であるのかと感じている。以上新しい基本計画に係る補足である。

その他(2)

生駒市ごみ減量市民会議の活動参加への感想、ご意見など

参加者 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）の施策について、前回は取り組めていなかったことが多かった。今回の生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）の施策も実現してもらえるか危惧している。目標値の修正など前回はできていなかったPDCAサイクルにより進行管理を行い、達成可能な目標を持ってほしい。

参加者 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）について、PDCAサイクルのC、チェックを誰がどういう組織で行うのかという心配がある。また、生駒は住みやすいと言われている。人口は本当に減るのかと疑問に思う。ごみに関心のない人への啓発を行ってほしい。

参加者 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（案）の施策のとおり、積極的に行動を実行してほしい。

参加者 事業者として、ごみの容量は減ったと感じている。今後は次の計画の10年間で、食品ロス、バイオマスの資源化、事業系など重量の減量に力を注げば10%の削減に近づけるのではないかと思う。

参加者 自治会懇談会に参加させていただき、市民の色々な意見を事業所に持ち帰れた。バイオマスやプラスチック問題、食品ロスなど課題は多いが、次の計画の10年間に向けてこの市民会議で実施してきたことが生きていければ良いと思う。また、こういう活動の場があれば事業所として参加してほしい。

参加者 ごみは分別や再利用など出口問題が主であったが、新しい計画では5Rの考え方が前面に出ていることは評価点である。若い世代へのSDGsの考え方を啓発することでごみが入口問題という考え方に導かれると思う。

参加者 ごみは出して終わりではなく、尽力して下さるたくさんの方々がいることがわかりごみ出しについて勉強になった。そのことを若いお母さんに広げていきたい。今後の活動にも期待します。

参加者 行政と市民が両輪となり、ごみや環境に関わった活動をするのは理想であり、それが実現でき、楽しく活動できた。新しい計画では、市民が実現して良かったと思われる計画内容であってほしい。市を支えているのは住民であることを認識していただきたい。

参加者 様々な行事やイベントに参加して有意義であった。次の計画でごみ排出量の15%削減は難しいと思うが、バイオマスの取組みにより可能ではないか。市民会議のような市民の意見を聞ける組織を作ることは有意義であると思う。

以上です。

本日の会議はこれで終了します。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

長らくご協力いただきありがとうございました。